

## 海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	オーストラリア・西オーストラリア州・パース市
研修先	西オーストラリア州・兵庫文化交流センター
プログラム実習期間	2014年8月21日～9月2日
学部/研究科・学年	国際協力研究科 博士前期課程1年

## インターンシップ就業実習 報告書

〈センターの通常業務〉

### ・チャッターボックス

センターでは、毎週木曜日と土曜日に「Chatter Box」と名付けられた日本語会話セッションが開催される。会話セッションと言っても、日本語を勉強している人や日本に関心がある人、地域に住んでいる日本人など誰でも気軽に参加することができ、日本語/英語で交流することができる。

インターン生は、参加者のための飲み物や食べ物の用意・補充をしたり、参加者と交流した。

### ・図書の貸し出し

センターでは、メンバーに対して日本語の図書やDVD、日本語学習のための参考書等の貸し出しを行っている。インターン生は図書の貸し出し、返却手続きや図書の整理等を行った。

### ・資料作成

パースで開催される様々な日本関連のイベントのパンフレット等の翻訳や、センターで活用する統計資料の作成等を行った。

〈スクール・ビジット〉

センターでは、州内の小中高校生に対して、校外学習として兵庫県の紹介や日本文化体験、簡単な日本語学習などのワークショップを定期的で開催している。ワークショップでは、訪れる生徒の年齢や日本語学習レベルに合わせて、様々なプログラムが用意されている。例えば、書道体験や折り紙、おべんとうの文化体験、和室のスケッチ、日本語クイズ、さらに日本人学校の生徒との交流などがある。

インターン生は、会場のセッティング等の事前準備はもちろん、ファシリテーターとして補助や、プレゼンやワークショップの一部を任せて頂いたこともあった。

#### 〈インターン生主催ワークショップ〉

インターンシップ最終週の土曜日に、インターン生主催のワークショップを行った。このワークショップは企画から告知、準備、実施まですべてインターン生が行うもので、上記の通常業務やスクールビジットと並行してインターン開始直後から企画・告知・準備をする必要があった。

ワークショップの内容に関してとくに条件はなく、毎年インターン生によって内容は様々である。ただし、多くの場合プレゼンテーション、アクティビティ、日本食試食の3部構成である。私たちは「日本のお祭り」というテーマでワークショップを企画した。このテーマを選んだ理由は、①プレゼンテーション、アクティビティ、試食に一貫したテーマを設けたかったこと、②いわゆる「日本祭り」は現地でも開催されているが、日本食を食べたりするだけで日本の祭りの文化そのものについて学ぶ機会がないこと、③大人でも子どもでも楽しめること、の3点である。

プレゼンテーションでは、日本のお祭りの文化、とくにお盆祭りについて紹介し、日本の有名なお祭りとお祭りをお祭りを紹介した。プレゼンテーションは、スタッフの方と何度もリハーサル、修正を繰り返し、本番はたくさんの参加者の方にプレゼンテーションがとても面白かったと言って頂いた。

アクティビティでは、インターン生が特技としていたお茶体験に加えて、お祭りの出店の定番ヨーヨー釣り、盆踊りをした。試食では、兵庫発の屋台料理、そばめしとたこせんべいを作って提供した。

3週間かけて準備したワークショップがうまくいくかどうか緊張したが、当日は約60名の方に参加頂き、皆さんに楽しんで頂きながら兵庫・日本に興味をもってもらえるよい機会にすることができた。

#### 〈その他〉

- ・日本語教室の補助
- ・兵庫県立大学附属中高校生との交流

### 感想および意見

兵庫文化交流センターでの3週間のインターンシップを通して、一口に「文化交流」といっても実に幅広く、様々な人が関わっていることを学んだ。文化交流センターは、日本語を勉強したい人、日本文化について知りたい人、ビジネスを展開したい人、地域の人と交流したい人、日本の本を読みたい人、地域の日本関連の情報を得たい人など訪れる人のニーズに応じて、オーストラリア人・日本人を問わず柔軟に幅広い資源・サービスを提供し、まさに西オーストラリア州と兵庫県、オーストラリアと日本をつなぐセンターとしての役割を果たしていることを、身をもって実感した。センターに関わる人々も実に多様で、本当に多くの方との素晴らしい出会いがあった。

スクール・ビジット等で行うワークショップの補助や、自分たちでワークショップを企画・実施した経験から、当たり前のことながら、文化紹介は一方通行ではなく、相手との双方向の文化の交流であることを実感した。プレゼンテーションでの内容はもちろ

ん言葉遣いや、ひとつひとつのアクティビティにしても、相手のバックグラウンドや相手が求めていることをしっかりと考慮することが不可欠であることを学んだ。さらに、スタッフの方のアドバイスを受けてワークショップを何度も練り直す過程で、文化の紹介よりも何よりも相手にまず「自分が何者であるか」を伝えることが重要であるという文化交流や教育における”authenticity”の重要性を学んだ。

またセンターでは、インターンシップの業務に加えて、自分たちの興味・関心に応じて様々なチャンスを与えて頂いた。私はオーストラリアの多文化教育や多言語教育、先住民の教育の問題に関心があったため、現地の日本人児童向けの日本語補習校を参観させて頂いたり、現地の学校で活躍されている日本語教師の先生方とお話させて頂いたり、教育省の多文化教育に関わる方にお会いしたりすることができた。

今回のインターンシップから得た貴重な学びを自分の今後の研究活動やキャリアの糧としてさらに精進していきたい。

最後に、私たちインターン生をあたたく受入れてくださり、様々な経験と学びの機会を与えて下さった、兵庫文化交流センターの皆さま、シェアハウスを受け入れて下さった方、そして神戸大学の皆さまに心より感謝申し上げます。

